

退職校長会だより

発行／北海道退職校長会

☎・FAX (011) 857-6266

✉ htoko500@gmail.com

URL <https://htoko500@wixsite.com/jimu>

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条11丁目7-32 札幌市立あやめ野小学校内

No. 249



— 支 え ら れ て —

北海道退職校長会 会 長

佐藤 晴樹

我が北海道退職校長会は、昭和40年5月、会員236名で発足しました。以来、各年代に即応し着実な活動を継続し、ピーク時の平成16年には、会員約6,000名の大きな組織になりました。しかし、その後残念ながら、減少傾向が続きます。特別委員会を立ち上げ、組織の再編成、会報発行の見直し、各会議の効率化などの改善策を講じてきました。そうした中で、年金問題、定年延長など、会員増につながる要素がますます少なくなりました。更に、コロナで活動の自粛が余儀なくされました。

会員の減少、高齢化など課題が多く厳しい状況ですが、今年度、創立60周年を迎えることができました。これまで多くの偉大なる諸先輩に支えられての60年です。5月20日ホテルライフポート札幌にて、「創立60周年記念式典・祝賀会」を開催いたしました。各

支部の出席はもちろん道教委、市教委、全連退など多くのご来賓のご臨席を賜りました。式典では、「60年の歩み」のスライドが投影され、諸先輩の業績を改めて確認すると共に、新たな発見もありました。また、本部・支部の永年勤続功績者への感謝状贈呈も行いました。

祝賀会では、和やかな雰囲気の中で歓談が進み、道小会長、顧問、小樽支部長の3名からスピーチをいただきました。全連退会長のハーモニカ伴奏による合唱で幕を閉じました。

一昨年の記念事業準備委員会、昨年の記念事業実行委員会で「式典・祝賀会」、「記念誌道程No.6」の準備を進めてきました。本間準備委員長、千田実行委員長のもと、委員の皆様の献身的なご尽力の賜物です。改めて感謝申し上げます。

第61回 北海道退職校長会 令和7年度 定期総会報告

と き
令和7年5月20日(火)
ところ
ホテルライフォート札幌

第61回総会は、全国連合退職校長会会長田中昭光様と本会顧問黒坂由紀子様をご来賓としてお迎えし、全道各支部の役員及び本部役員合わせて65名が出席し開催された。

※役職名は役員改選前のもの

開会 全体進行 鈴木副理事長

開会の言葉 阿部副会長

会長挨拶(要旨) 千田会長

本会は創立60年という節目を迎えることとなりました。これも一重に先人の皆様のご尽力と会員一人一人の温かいご支援の賜物であり深く感謝申し上げます。本会は昭和40年5月に結成されました。その結成大会を第1回総会と数えたとき、今回は第61回総会ということになるわけでございます。

私たち退職校長は、現職時代それぞれの立場で教育に尽力して参りました。その経験を今後も地域社会や次代の教育に活かしていくことが、本会の大きな役割と考えます。年を重ねても学び続け繋がり合いそして支え合う姿勢を忘れずに、これからも歩みを進めて参りたいと考えています。本日の総会では今後の活動の方向性についても、皆様と意見を交わしながらよりよい未来に向けての一步を共に踏み出したいと願っております。



来賓紹介 佐藤理事長

祝辞 全国連合退職校長会

会長 田中 昭光 様

全連退で言いますと、子どもたちの減少とともにもっともっと残念なのは統廃合です。

学校を一つにすればよいのではなくて、地域にある学校を大切に子どもたちを育ててほしいものです。全国組織ですから文科省にもお願いしますが、なかなか実現しません。

最近では社会の中で、先生方の苦労や勤務の厳しさが取り上げられて、文科省を中心に教員の勤務の在り方が議論されて改善に向けて動いているということは言えると思います。最近になって、低学年での少人数学級の価値が理解されて、上級生でもと動き始め、中学校の方も、受け入れる子どもが少なくなっているのでも一人一人の個性とか能力を大切にした教育活動に取り組んでいます。

ただ将来を考えると、今までの教育活動でやってきたやり方だけではAIが発達する中将来的に子どもが活躍できないということで先生方も苦労されています。場合によると午前中は教科書を中心にした授業をして午後からは個性や能力を活かして力を伸ばしたいという活動も始まっています。都心の区では、先を見た教育活動をやっています。子どもたちが少ないので細かい指導ができるので、東京では徐々に広がりつつあります。

皆様をお願いしたいのは、北海道という広い地域ですと、子どもが少ないので統廃合という流れもあると思います。何とかして先生方が今まで子どもに関わって、地域の文化や地域で活躍した人を育ててきたという実績をエネルギーにし、OBという立場を生かして教育を支援することにお金を使うこととか、先生方が苦労して教育活動していることを評価していくバックアップ体制をつくるため発言して欲しいと思います。教員を希望する若い人が減っている現状の中で、情熱をもって学校で子どもたちと仕事をするのを応援していきたいと思います。学校で仕事することに価値があるということを伝えていくこともできると思います。そのために地域での関係を大切に、健康を大切にしながら会を存続させるとともに、活動していただきたいと思います。



◎議長選出 札幌白石支部長 遠藤紘之助 氏
報告事項

(1) 令和6年度活動・事業報告(佐藤理事長)
…効率化と経費削減のため拡大事務局会と60周年記念実行委員会を同時開催。役員候補推薦委員会も開催。加入促進については組織部を中心に各支部の実情に配慮した取組を進めた。eメールを活用し効率化と経費削減に努めたが、支部の協力に感謝。会報もページ削減、内容紙面構成変更を検討。教育の日の事務局について教育振興会の解散に伴い構成員が変更。今後の在り方について引き続き道教委との話し合いを継続。創立60周年記念事業実行委員会を組織し準備に努めてきた。

組織部…準会員について支部取組に感謝。
広報部…60周年記念誌に日常業務と並行し携わる。広報誌は16頁から12頁に。
情報部…春叙勲20名、秋叙勲23名。「はるにれ」では現職校長2名が情報提供。

(2) 令和6年度一般会計・特別積立会計決算報告(羽川理事)…会費は想定よりも多く収入、eメールの活用で郵送費を圧縮できた。繰越金は昨年よりかなり減った。

(3) 監査報告(永井監事)…月ごとの内部監査チェックの努力によりスムーズに進行。

(4) 「北海道教育の日」道民運動推進協議会の活動報告(木村副理事長)…オンライン配信は業務軽減のため見直しを検討中。

(5) 質議・承認

※報告事項は全て承認された。

協議事項

(1) 第1号議案

・令和7年度活動方針・事業計画(案)(佐藤理事長)…厳しい状況であればこそ支部と本部、個人会員との連携強化のため、各種

事業、会報、ホームページ等を内容的に工夫。新会員勧誘促進には役職定年の理解の上で強く働きかけを。会務の運営には、効率化・経費削減に努力。支部との連絡は原則Eメールで。会の維持・強化・発展のため、会務運営検討委員会を発足。事務局会と拡大事務局会の実施方法を工夫。

・令和7年度各部事業計画(案)

組織部(湊組織部長)…役職定年2年目で新規加入に難しい面が。現職校長との繋がり。加入案内は、支部との時期のずれで迷惑をかけて申し訳ない。今年度は補充の会員名簿を作成。地区連絡員は根室市が外れ6名に。

広報部(大向広報部長)…令和7年度より会報誌16p→12pで発行。新発行計画は後ほど連絡。8月号の発行日を最終金曜日に変更。

情報部(平岡情報部長)…福祉シリーズは休載。「はるにれ」は民間教育団体の現状を継続掲載。

(2) 第2号議案

・令和7年度一般会計予算(案)・特別積立会計予算(案)(羽川理事)…年々の繰越金減少で厳しい状況、大胆な行事・支出削減を考えなければならない時期に。会費収集時の領収書送付は必要無し。郵送費が大幅な値上がりのため方法検討を。JR料金改定のため旅費規程も変更。

(3) 第3号議案

・会務運営検討委員会(佐藤理事長)…支部の退会、新入会員減少、退会者増加により早急に考える必要が。検討委員を副会長、支部、本部役員から選定し委員会立ち上げる。会費、支部活動費等は現状維持を前提に。

(4) 第4号議案

・支部及び会員からの提出議題
※議題は出されなかった。

(5) 第5号議案

・総会宣言決議(九嶋宣言文起草委員会委員長)
※議案は原案通り承認された。

(6) 第6号議案

・役員改選(坪井役員改選委員会委員長)
※議案は全て原案通り承認された。

議長退任

寿詞・賀詞の贈呈

退任役員への感謝状の贈呈（佐藤新会長）

佐藤会長より、退任される役員に感謝状が贈呈され、その後千田前会長にご挨拶をいただいた。



新役員の紹介…プリントにて

会 長	佐藤 晴樹	※札幌は地区 名を省略
副会長	平岡 弘之	
	木村 範子	
	阿部 憲司	(函 館)
	福家 尚	(旭 川)
	加賀 政治	(小 樽)
	九嶋 哲雄	(十 勝)
監 事	小林 隆	(江 別)
	佐藤 恵三	(岩見沢)
	加藤 優二	(北後志)
理事長	鈴木 宏信	
副理事長	大向 明宏	
	川島 康恵	
事務理事	羽川希世志	
組織部部長	栗原 靖	
理事	兼間 昌智	
	神谷 敦	
	宮武 祐子	
広報部部長	岩田 敦	
理事	伊藤 春美	
	長内 康志	
	北原 徹也	
情報部部長	駒形 武志	
理事	小倉 悦子	
	北 圭一	
	吉井 恵洋	

新会長挨拶（佐藤新会長）

偉大なる千田会長の後を受け継ぐことにな

り、責任の重さに身が引き締まる思いであります。我が北海道退職校長会は、本当に厳しい状況にあるのは事実であります。各支部におかれましては、会員の減少等でひょっとすると点になりつつあるのかもしれませんが、しかし、その点も繋がれば線になります。さらに北海道退職校長会のキーワードである絆で繋がれば、円になることもできます。ピンチがチャンスという言葉もあります。本当に半世紀以上続いているこの会であります。この火を何とか消したくない、そんな思いであります。幸い私以外若い理事が揃っております。未来はちょっと明るいのかな、そんな気もしております。それでは、皆様方の温かいお力添えが必要になります。どうぞ今後ともよろしくお願いいたします



閉会の言葉（福家副会長）

創立60周年記念式典より

60年の歩み～スライド上映～



令和7年 叙勲受章者

「春の叙勲」及び「高齢者叙勲」を晴れて受章
されましたことを心よりお祝い申し上げます。
併せて、益々のご健勝を祈念申し上げます。

◎春の叙勲受章者

令和7年4月29日 文部科学省発令（発令順 敬称略）
○瑞宝双光章 大村 義美（高）函館市 六辻 章子（小）旭川市
桑山 英二（小）札・北区

◎高齢者叙勲受章者

令和6年12月～令和7年4月 文部科学省発令（発令順 敬称略）
○瑞宝双光章 石郷岡 武（中）七飯町 高橋 昌二（小）旭川市
中山 孝義（小）帯広市 外崎 弘（小）札・豊平区
嶋倉 訓（小）美瑛市 阿部 宏明（中）札・西区
高田 進（小）江別市 玉置慎太郎（小）旭川市
生駒 真人（小）旭川市 皆川 國男（小）札・手稲区
楠 春美（小）旭川市 丹波 利達（小）札・厚別区
門田 弘道（小）江別市 久我 宏（小）稚内市
吾子 功（小）稚内市 伯谷 巖（小）札・南区
○瑞宝単光章 白土 善藏（幼）札・清田区

退職校長会には「本道の教育振興に寄与する」「現職にある校長先生の応援団」という大切な役割があります。

現在の教育現場を見ると、「幼保小連携」と「小中一貫した教育」が進められています。

「幼保小連携」は、「架け橋期」と呼ばれる5歳児から小学校1年生までの2年間で、遊びを通した幼児期の学びと教科を通した学校での学びがスムーズにつながるように「架け橋プログラム」を作成しています。学びがスムーズに接続して一人一人の小学校での学びが進められることを目指しています。

「小中一貫した教育」は、地域の実情を踏まえて「育てたい子ども像」を共有した上で、小・中学校が協働で「一貫した教育課程」を作成し、地域に適した教材開発なども行いながらスムーズに中学校での学びが進められることを目指しています。

「幼保小連携」は小1ギャップを乗り越

えるため、「小中一貫した教育」は中1ギャップを乗り越えるために行われているのであれば、退職校長会も現職と退職者のギャップをスムーズに乗り越えられる工夫が求められているのだと痛感します。

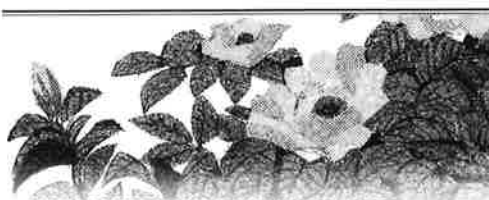
この2つの取組が一体的に取り上げられることは、あまり多くはありませんでしたが、現在では「地域運営学校（コミュニ

ティースクール）」の導入が進められています。日常的にまとまりのある地域ではすぐにでも開始できるでしょうが、これまで地域と学校との関係が希薄だった場所でも、学校運営協議会のメンバーに幼児教育や青少年育成に関わる地域の教育関係

者も参加していくことが考えられます。

持続可能な社会を目指す中で、「乳幼児期から青少年までの成長」を地域で見守る取組が大切です。退職校長会の会員が、地域の中で学校を応援していく機会も増えていくのではないかと考えています。

（平岡 弘之）



はまなす評論 226

地域運営学校で 教育現場を応援



情報部

社会科の授業改善に向けたアプローチ

北海道社会科教育連盟 前委員長

札幌市立駒岡小学校

校長 平澤 淳志

1 はじめに

めまぐるしく変化し、将来を予測することが困難な現代社会においては、未来に向けて持続可能な社会を維持発展させていく人材の育成が求められています。また、協調性や社会貢献意識を育み、ウェルビーイングを向上させる教育の重要性もクローズアップされてきました。このような現代的課題に応える上で、「公民としての資質・能力の基礎」を育成する社会科教育の果たす役割は大きくなってきていると考えます。

本稿では、今、社会科に求められている授業改善に向けたアプローチについて、筆者が所属している北海道社会科教育連盟の実践研究とも関連付けて述べさせていただきます。

2 社会科のおもしろさ

学研教育研究所が2024年11月に実施した「小学生の日常生活・学習に関する調査」で、好きな教科・嫌いな教科を問う調査項目がありました。調査結果を見ると、「社会科が一番好き」との回答は5.5%で、全教科中7番目の順位でした。まずは、「子どもたちを社会科好きにしたい」ことが筆者の願いです。

社会科が好きではない理由について、「暗記することが多いから」と聞くことがあります。単に試験のために丸暗記した知識は、生きて働く知識とは言えないでしょう。それに対して、問題を解決するために自ら獲得した知識を活用できたなら、社会科のおもしろさを実感できると思うのです。

また、社会的事象についての多様な解釈に価値を見いだすことができるのも、社会科の

おもしろいところです。胸を張って「間違い」を言える教科が社会科なのだと思います。

このような社会科のおもしろさをベースに、確かな資質・能力を伸ばしていく授業改善が求められていると考えます。

3 社会科授業改善の視点

(1) 小学校から中学校への接続・発展

現行の社会科学習指導要領では、小学校第3学年から中学校公民的分野までの全ての学習内容が「地理的環境と人々の生活」「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」「歴史と人々の生活」の三つの枠組みに区分して整理されています。これは、小学校から中学校への接続・発展を視野に入れて、系統的に学習を積み重ねていく重要性を示したものです。ここで留意すべきは、「小学校から中学校へ進むと何が発展しているか。」について着目することです。例えば「思考力」について、小学校第5学年・第6学年の目標には「多角的に考える力」とありますが、中学校地理・歴史・公民の目標では「多面的・多角的に考察（する力）」となっています。

「多角的」「多面的」それぞれの意味する内容は、以下のように整理できます。

「多角的に考える」

複数の立場や意見を踏まえて考える

「多面的に考察する」

社会的事象の複数の側面から考察する

思考力が小学校から中学校へどのように発展するかについて、「国際社会における我が国の役割」の学習を例に見てみます。

小学校第6学年では、「過去の戦争を経験した我が国の立場」「国際的な援助を必要とする地域の人々の立場」「国際連合など国際的な機関の立場」など複数の立場から、多角的に国際協力の在り方を追究します。

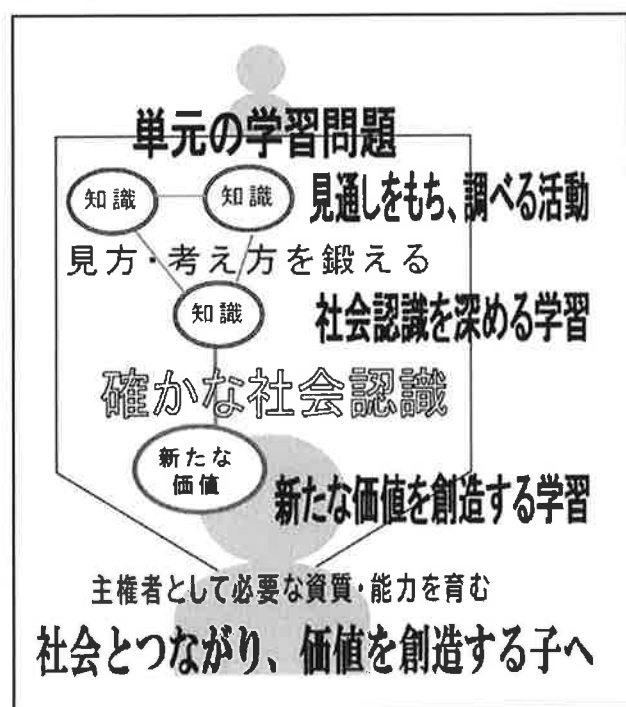
この学びを土台として、中学校公民では「持続可能性」「文化や宗教の多様性」「対立と合意」などの観点から多面的に考察を深め、国際社会の課題の解決に向けた貢献の在り方を追究します。この例のように各学校段階で育成する内容を踏まえることが、授業改善のポイントになると考えます。

(2) 新たな価値を創造する学習の構築

教育の未来像を描いた「OECDラーニング・コンパス2030」では、よりよい未来の創造に向けたコンピテンシー（資質・能力）として、①新たな価値を創造する力、②責任ある行動をとる力、③対立やジレンマに対処する力、の三つを挙げています。複雑で不安定な現代において、私たちの社会を変革し、私たちの未来を作り上げていくための力であると言えるでしょう。

このような「よりよい未来の創造に向けた資質・能力」を育んでいく視点を、社会科教育でも積極的に取り入れていくことが大切であると考えます。

北海道社会科教育連盟は、令和5～7年度の3か年研究において、研究副主題を「見方・考え方を鍛え、確かな社会認識をもとに未来を志向する社会科の学び」と設定し、「新たな価値を創造する学習」の具体化に取り組んでいます。社会認識を深め新たな価値を創造する単元のイメージ図を以下に紹介します。



単元の後半に位置付ける「新たな価値を創造する学習」では、社会に見られる課題の解決について議論したり、自分と社会の関わり方について選択・判断したりする学習を取り入れます。よりよい未来社会を創る上での自分の役割や可能性に気付き、社会参画への意欲を高める子どもの姿を目指しているのです。

(3) 発想の転換を迫る問いの醸成

北海道社会科教育連盟は、「雪や寒さは宝である」を合言葉に、発想の転換を基軸に据えた研究活動に長年取り組んできました。これは、積雪・寒冷の地域である北海道において、雪や寒さを厄介で面倒なものとするマイナスのイメージで捉えるのではなく、そこに内包されているプラスの要素に着目し、困難な問題であっても前向きに解決を図る「人間の営み」を価値付けるものです。

このような授業観の下、令和4年10月に、「全国小学校社会科研究協議会研究大会北海道大会」を札幌にて開催しました。この大会では、「～のはずなのに、なぜ…なのだろう？」という問いを醸成し、社会的価値を創出する人物の営みに迫る授業を公開しました。公開授業における問いの具体例を以下に紹介します。

3年 農家の仕事

（病気に弱くて保存しにくいのに）
どうして坂東さんは、札幌黄をたくさん作っているの？

4年 お菓子作りがさかんなまち・帯広市

（札幌にお店がたくさんあるのに）
小田社長は、どうして十勝でしかお菓子作りをしないの？

5年 情報産業とわたしたちの暮らし

（自分たちで取材した情報があるのに）
UHBの天羽さんは、なぜ一般の方からの情報を活用しているのか？

6年 明治の国づくりを進めた人々

（まだ開拓して間もない時期なのに）
黒田清隆はなぜ札幌にビールの官営工場を造ることを決めたのだろうか？

4 おわりに

気候変動による環境問題や相次ぐ国際紛争など、解決を迫られる課題が山積している現代社会においては、一人一人が当事者意識をもち、様々な立場の人たちと協働して課題の解決を目指す姿勢が求められています。

新たな価値の創造を志向した社会科の授業改善が、子どもたちの社会参画への意欲を高め、未来を切り拓く資質・能力を育む一助となることを願っています。

支部交流

次に繋ぐ思いで

室蘭支部

事務局長 笹原 正 明

<はじめに>

室蘭市は工業の町として栄え、これまでの歴史を歩んできました。人口は昭和45年をピークに減少し、今年4月末現在で約74,100人になります。人口減少は今後も続くものと思われています。

その中、室蘭市の小中学校も統廃合が進み、今年度より、初めて義務教育学校1校が開校し、小学校8校・中学校6校の計15校になります。

<室蘭支部の現状>

本支部は室蘭市を中心に近隣の登別市、伊達市在住の会員で構成されています。現在の会員数は35名です。会員の多くは本支部の母体となる室蘭市退職校長会「こぶしの会」の会員でもあります。そのため、各事業は「こぶしの会」の計画に合わせて活動しています。

<活動内容>

- 1 室蘭支部総会及び新会員歓迎会の開催
- 2 合同パークゴルフ大会（登別市退職校長会と合同開催）
- 3 第43回作品展の開催
- 4 室蘭市退職・現職校長会交流懇親会の開

催

- 5 スクール児童館及び土曜学校学習支援ボランティアの実施
- 6 新会員加入に向けての活動
- 7 こぶしの会会報への道総会等の情報提供

<課題に向けて>

北海道退職校長会におかれては、今年度創立60周年を迎えられます。永きに渡り、歴史と伝統が諸先輩により引き継がれてきました。本支部の母体の「こぶしの会」においても、今年度同じく創立60周年で一つの節目の年になります。

しかし、道本部、各支部の現状や課題を伺うたびに、共通の難しさがあることがわかります。特に会員数の減少が避けられない状況の中で、どのようにして、次に繋いでいくのが最大の課題であります。

今年度、本支部では4名の新会員が入会いたしました。ここ数年にない複数の入会者に喜びと有難さを感じております。共にこれまで数々の課題と向き合ってきた仲間です。本支部として、互いに支え合い、次に繋いでいく心を大切にしながら、本支部の運営に努めていきたいと考えております。

支部のイチオシ



▲「えみらん」/DENZAI環境科学館・室蘭市図書館



広 場



わが「戦後80年」のあれこれ

北広島支部 遠 藤 力 雄

本年は「戦後80年」の節目の年という。私は、九十路入り、その自分史の出来事をいくつか回顧してみたい。

■ 開戦・終戦の中で無念な長兄の戦没死
召集後2年にして、「南島テニアン島にて玉砕」の報に号泣する母親の姿が今も脳裏に。まだ島に眠る兄の慰霊かなわす。合掌。

■ 民主国家を目指す担い手 教師の道へ
戦後ベビーブームの時代が到来。中学校教師を望むも小学校へ。網走管内の母校へ。

■ 異動 石狩管内を5市町11校を巡る
小(4)中(7)、併置(1)を教諭・教頭・校長職として勤務。その中に僻地校や新設校(3校)あり、多種多様な経験をする。

■ 石狩管内教育研究所へ4年間出向
石狩管内教育研究会の設立に伴い、その組織化や運営推進に当たる。また、石狩研修センター員としての研究課題の解明に当たる。

■ 校内暴力問題多発化やいじめの深刻化
修学旅行の観光地や青函船内の移動に腐心。

■ 文部省教員海外派遣団員として訪欧
東ドイツ(共産圏) オーストリア(中立圏) フランス(自由圏)の3ヶ国を1ヶ月視察。総勢28名。視察国は大歓迎。日本国の文部省が高く評価された。

■ 「全国中学校選抜剣道大会」の主管
「千歳市開基記念総合武道館」のオープンイベントも兼ねて開催。競技委員や地域関係者が協力して準備。難儀した。選手へ地元産の牛乳やジャガイモなどでもてなす。

■ 退職校長会 ありがとう
10年毎に記念事業を実施するなど心の支えや拠り所となっている。異動後も。今、残る兄妹は自分ひとりだけとなった。

瓢 箆 あ れ こ れ

北後志支部 岩 城 修

かつて、志賀直哉氏の『清兵衛と瓢箪』という小説を読んだ。瓢箪磨きに熱中できる少年の姿に、一種のあこがれをもった。

現職の時、上砂川町在住の瓢箪愛好家の岩渕久さんが新聞で紹介された。連絡を取ると、苗を無料で送ってくださり、育てたのが瓢箪づくりのきっかけだったように思う。

退職後、庭の片隅で瓢箪を育てている。実った瓢箪のへたをとった所や底に穴をあけ、水につけ中を腐らせる。ちょっと臭うが、捨てて乾いた種子を野鳥がついばむのも可愛い。

昨年、新聞で札幌での文化教室の「ひょうたんライト」の講座を目にし、申し込んだ。講師は伊藤伸二先生。世界各地を巡るうちに瓢箪に惹かれたという。途上国では、瓢箪は、今でも生活用品、楽器やおもちゃとして使われているという。

受講者は20人程で、小さな瓢箪の表面を目打ちやアートカッターで穴をあける。内側にライトを入れて完成。部屋を暗くして、鑑賞する。ほとんどの人が写真に収めていた。

10月から12月にかけて伊藤先生による計3回の「ルームライト」作りの講座があり、申し込んだ。受講者は、自分を含め二人。

今度は、大瓢箪に向かう。目打ちや電動ドリル、はんだごてなどで穴をあけていく。

はんだごてからの焦げたにおい、電動ドリルの快い響き、窓を打つ雪、伊藤先生の助言やつぶやき…。

熱を持たない電球を入れて完成。自分は、台上にのせるスタンド、もう一人の人は上から吊るすランプにした。

このように瓢箪を加工して楽しむ一方、た



ただただその姿や、年を重ねるほどに銚色を深くする様を眺めるのもよいものだと思う。

教育の今日的課題に直面して

江別支部 秋澤 裕

退職してから早11年目を迎えました。退職後は、時間的に余裕のある生活が出来るだろうと思っていましたが、そうでもありませんでした。

初めの5年間は、江別市教育委員会で特別支援教育コーディネーターとして勤務しました。市教委では、大学、養護学校等の協力を得て、医師、臨床心理士、作業療法士、教員等による専門家チームを構成し、支援を要する子の観察や検査、保護者と学校を交えた教育相談を行い、医療や福祉につなげる活動をしていました。

1年目は適度な相談件数でしたが、2年目以降、校内コーディネーターを中心とした教育相談や専門家チームの充実、発達障害等に関わる報道も増え保護者の関心も高まり、巡回件数が1年目の倍以上になりました。休みは、なかなか取れませんでしたでしたが、専門家の先生方との繋がりも強く、専門家の先生方から多くのことを学ぶことができ、充実した毎日でした。

この仕事もあと2日で終わろうとしていた頃、高学年理科の時間講師の話がきました。今日的課題である人手不足のため、各校苦勞して探していたようなので1年だけという約束で受けることにしました。現職時代と違って教材準備の時間がたっぷりあるので子どもが興味・関心をもち実験観察に取り組めるよう心掛けました。新たなプログラミング学習については、学生時代にコンピュータを触ったことがないのにプログラミングの講義を受けていたことが幸いしました。

結局、理科講師を2年と、定年退職後7年間、教育の課題を実感しながら予定より長く仕事に就きました。無職となった今、自分の時間として、70代でも5回目の富士山登頂を目指せるように健康や体力維持に心掛けたいと思っています。

「時計台」に魅せられて

札幌豊平支部 細田 秀夫

札幌を代表する観光地の時計台。当時「演武場」と呼ばれていたことを知っていますか。

13個も壁に付いた赤い星を「あれは何の印」と問う女学生。当時の豊平川の小石の重りだけで「130年も動き続けているなんて…」建った時、屋根の上に鐘があったそうで、今は頭でっかちの時計。「どうしてこうなったの？」多くの観光客が次々に質問を投げかけてきます。私はこうした時計台の謎について探究心旺盛なお年寄りにも応えています。そう、私は時計台だけではなく、道庁・北大等札幌市の身近で重要な文化遺産を後世にも伝えるべく観光ガイドをしているのです。



若者たちは「この建物、なんで有名なの」と問い、「クラークの有名な言葉なんて知らないよ」等と返答されると、丁寧に歴史を皆のものにするために解説していきます。

すると彼らは、生き生きと生まれ変わって聞き入り帰っていきます。特に外国人は「何故アメリカの教育がこの場で取り入れられたのか」問われることもあります。そうした時は、おもしろおかしく伝えることを心がけガイドすると『時計台がっかり度』が、いつのまにか薄れるどころか、見学した歓びに変わっていくようです。

クラークは、「地位やお金や名声が重要であるのではなく、知識や正義、世のため人のため、そして自分の人格形成のために目標を高くもって励みなさい」と教えてくれたことを学生たちにもお年寄りにも伝えます。

75歳から始めて7年目のこのボランティア活動。認知症の予防になり、勇気を奮い立たせ、老人脳をゆっくり歩ませてくれます。

いくつになっても“欲”をもって外に出て活動すると、たくさんのエネルギーが身につき、益々元気づく自分がそこにいるのです。世のためを意識して頑張っているつもりです。

50 - 50

美唄支部 田 島 孝 雄

元日本ハムから米大リーグに渡ったドジャーズの大谷選手が、50-50なる史上最高の偉業を成し遂げました。さらに米野球史上達成した大リーグ選手はいないとのこと。昨年2024年のことで大感動しました。

驚くことに、実は私も、50-50を達成したのです。誇れることではないですが。

昭和45年4月に就職し、平成20年3月に定年退職しました。退職後にご縁をいただきふる里美唄市の市教委臨時職員として仕事を続け、令和4年3月31日に再退職し、52年間の長きにわたる勤務(仕事)をすべて終えました。

一方、私事ですが、昭和49年にこれまたご縁をいただき妻と結婚しました。昨年11月、二人の娘の思いやりで某高級ホテルに一泊し、金婚式(結婚50周年祝い)を細やかに祝いました。大リーグの大谷選手とは比較にならないことだと気づいている自分がいますが、自分にとっては周りの人の我慢に支えられた人生の中の大きな「50-50」だと思っています。

ふる里美唄での暮らしも、すでに18年目になり、家族はもちろんの事、優しい先輩や隣近所、町内会のみんなに助けられ、小さな菜園で野菜を育てながら、後期高齢者の二人三脚で仲良く喧嘩しながらお迎えがくるまで生きることができるよう願う毎日です。

とは言っても、現在は5つの任意団体等の役員を仰せつかり、毎日のようにパソコンと格闘中です。悲しいかな文字が見えづらくなってきました。昨年白内障と緑内障の手術を受けましたが、さほど視力は回復せず運転免許更新講習が近づいている今、認知症試験を如何に乗り切るかが目下の悩みです。

来年は“傘寿”だよと聞かされていますが病院とは仲良しなので、現時点では到達できそうです。只一つ願うのはオールフリーの暮らし。その中でやりたい事を実行している自分を想像する今日この頃です。

「人生、楽しまなくちゃ！」

西十勝支部 合 掌 浩 孝

定年延長制度が導入される前年度(令和5年3月31日)に退職すると同時に、現役時代お世話になった先輩に、北海道退職校長会西十勝支部にお誘いをいただき、現在に至っています。この2年間、後輩の校長先生たちが、早期退職をするか、現職を降り教員生活を全うして退職するかで迷う姿を目の当たりにし、この制度の不条理さを切に感じつつ、「60歳を節目に校長として退職し、次の人生を踏み出せた自分は、何と幸せなのだろう！」と、つくづく感じながら、日々を送ってきました。と、言いますのも、私は退職と同時に、最後にお世話になった新得町の教育委員会で、働かせていただき、教育行政と学校現場を繋ぐ役目を担っています。教育長から、学校教育に関わって自分の考えや手法を尊重していただいているので、失敗を恐れずに業務を進めることができ、忙しい中にも充実しているとさえ感じています。

そのような中、この3月に、本町で早期退職を選んだ中学校の校長先生が、退職を前に、「今度、〇〇町の教育委員会で、合掌さんと同じような仕事をするようになったから、わからないことがあったら教えてね。宜しく！」と、言ってくださいました。その表情は穏やかで、次へのステージを楽しみにしているとさえ感じられました。目の前の仕事(業務)をしっかりと行っていれば、自然と道は拓けるものと確信した瞬間でした。同時に、早く65歳退職制度における役職などの環境整備が進むことを、強く望むばかりです。そうすれば、退職校長会に、誘うことも然程難しくなるのですが…どうしても、ひと声かけることを躊躇してしまう自分がいます。

人生100年時代!「60歳で退職」は、死語となりました。これからの時代とともに生きていくには、より強さが必要なのかもしれません。「人生、何があろうとめげずに楽しまなくちゃ!!」と、日々自分に言い聞かせています。



■令和7年度第61回定期総会 (令和7年5月20日)

ホテルライフオート札幌)

令和7年度活動方針、各部事業計画、予算等遠藤議長のもとで協議され、全て承認された。また、急務となっている会務運営検討委員会の発足についても承認された。続いて総会宣言が採択され、新役員も承認された。続いて退任なさる千田前会長はじめ役員の方々に感謝状が贈呈された。会の発展にご尽力いただき改めて感謝申し上げる。

■創立60周年記念式典・記念祝賀会

(総会後)

69名の参加があり、藤平記念事業実行副委員長の開会の言葉に続いて国歌斉唱、千田実行委員長の挨拶があり、来賓祝辞を北海道教育委員会、札幌市教育委員会より賜った。スライド「60年の歩み」では、創設からの変遷に思いを馳せ、永年会員に感謝状を贈呈した。笠谷副実行委員長の閉会の言葉で式を閉じ、続く祝賀会では、会の来し方を偲び、今後の充実を願うとともに和やかに親睦を深めることができた。

■令和7年度全連退理事会・総会

(令和7年6月5日・6日)

東京都品川区きゅりあんホール)

佐藤会長が参加した。会務報告他総会の議案が審議され、会務全般、新役員、事業計画、予算、宣言などが協議され承認された。佐藤会長が北海道地区副会長として選出された。

終了後、設立60周年記念講演会が開催された。講師「3・11語り部 菅原貞芳氏」、演題「乱にいて治を忘れず治にいて乱を忘れず」。

■「北海道教育の日」道民運動推進協議会総会

(令和7年6月24日)

ホテルライフオート札幌)

倉本会長の挨拶に続き、北海道教育委員会より来賓挨拶を賜り、伊勢議長のもと事業報告、今年度事業計画、予算案が承認された。総会に続いて、道教委特別支援教育課長中嶋氏による「特別支援教育の現状と充実に向けて」と題した講話があった。千田前副会長が退任され、佐藤会長が副会長に就任した。(鈴木)

事務局日誌

令和7年4月分～令和7年7月分

< 令和7年4月 >

4日 令和6年度
年度末監査
8日 事務局会⑦
15日 会報248号発行
拡大事務局会⑥
60周年実行委員会
17日 組織部会
24日 「北海道教育の日」
事務局会

22日 「北海道教育の日」

幹事会

27日 事務局会①

< 6月 >

10日 「北海道教育の日」

事務局会

17日 拡大事務局会①

23日 組織部会

24日 「北海道教育の日」

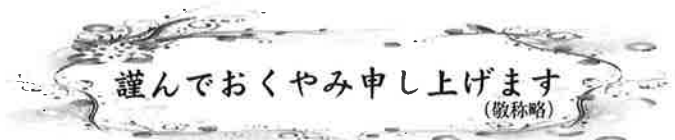
総会

< 5月 >

16日 情報部会
20日 第61回総会
創立60周年
記念式典・祝賀会

< 7月 >

1日 第1回理事会
会務運営検討委員会
17日 広報部会
31日 広報部会



中田 透(97)	北 見 6.5.12	浜井 広光(87)	函 館 7.5.17
笠原 昭一(95)	札・北 6.10.25	木林 啓爾(86)	旭 川 7.5.26
後藤 賢一(71)	函 館 6.12.16	山本 勇(91)	岩見沢 7.5.29
植村 茂樹(86)	函 館 6.12.28	山中 幸高(92)	帯 広 7.5.30
藤原 幸一(92)	札・中央 7.1.7	本家 護(83)	帯 広 7.6.1
栄田 誠二(96)	札・中央 7.1.29	工藤 俊一(85)	室 蘭 7.6.2
安彦 幹雄(92)	札・手稲 7.3.23	三宅 正幸(91)	札中央 7.6.7
鈴木 昂(85)	後志・羊蹄 7.3.24	内田 肇(84)	旭 川 7.6.7
志村 周次(83)	札・中央 7.3.25	佐藤 英夫(95)	札・東 7.6.9
佐藤 博美(86)	帯 広 7.3.25	吉田 良昭(91)	北後志 7.6.10
工藤 幸治(93)	小 樽 7.4.2	山崎 和久(84)	帯 広 7.6.10
安田 隆(88)	札・豊平 7.4.4	鈴木 久司(82)	小 樽 7.6.12
瀬戸 肇(63)	旭 川 7.4.22	井尻 崇(73)	個 人 7.6.14
岩木 膺尚(91)	札・西 7.4.25	藤井 良江(73)	函 館 7.6.19
野沢 義郎(91)	札・手稲 7.4.26	吉岡 和男(84)	小 樽 7.7.2
茨木 進(96)	札・豊平 7.4.26	斉藤 哲郎(86)	旭 川 7.7.2
加藤 慎一(90)	美 唄 7.4.26	旦尾 宏(89)	函 館 7.7.10

編集 後記

60年前、この会を結成した先輩の思いを受け継ぐことができていますでしょうか。周年記念行事の中で、未来への危機感と共に、改めて考えさせられました。

私たち広報部は、全道の皆様の退職後の思いや情報を分かち合うことで、互いの絆を深める場になるよう頑張ることを誓います。(岩田)

■印刷所 展文社総合印刷株式会社
札幌市西区八軒7条西6丁目2番7号
電話(011)676-9898